

渋谷と公園

あらゆる人々が集まる公園。渋谷区には130の公園があり、公園緑地面積は区の約10%を占めています。区の中央部分には都立代々木公園があり、公園に続く道は渋谷PARCO(イタリア語で“公園”の意味)開店を機に公園通りと命名されました。緑豊かで池もある鍋島松濤公園や立体都市公園制度により生まれ変わった宮下公園など、渋谷の街のオアシスに足を運んでみてはいかがでしょうか。

『代々木Love & Hateパーク』

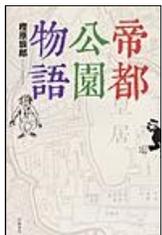
壁井 ユカコ／著 双葉社 2012



3月最後の日曜日、まだどこにも咲いていないはずの桜が舞う年…。代々木公園には仲間の中に「チェッコさん」が紛れ込み、代わりに誰かひとりがいなくなるという都市伝説がある。その伝説が現実となる日、何の繋がりもない人々が公園に集まり、それぞれの事情が絡み合っって思わぬ展開に発展していく。果たして「チェッコさん」の標的になるのは？

『帝都公園物語』

椋原 辰郎／著 幻戯書房 2017



慌ただしい首都東京には緑豊かで広大な公園が存在する。日本初の洋式公園と言われる日比谷公園、近代農業振興の役割を果たしていた新宿御苑、明治天皇をお祀りする神社と広大な公園がコンセプトとなっている明治神宮…。明治期における国づくりの一環でもあった公園のマル秘開発史。

「渋谷読書人」は

渋谷に関わる人全てに向け、
おすすめ本の情報を発信して
いく、渋谷区立図書館が発行
する定期刊行物です。

渋谷読書人 2024年2月・3月号

発行 / 編集 渋谷区立図書館

株式会社図書館流通センター

発行日 2024年2月

渋谷区立中央図書館

電話 3403-2591

住所 渋谷区神宮前1-4-1



2月29日は“うるう日”

4年に一度のこの日に生まれたヒトやモノをテーマにしてみました!



赤川 次郎

1948年生まれ



『幽霊列車』

赤川 次郎／著 文藝春秋(文春文庫) 2016

20作品以上続く赤川次郎の幽霊シリーズ第1弾。中年警部と推理マニアの女子大生が謎を追う、ミステリー小説。



辻村 深月

1980年生まれ



『ツナグ』

辻村 深月／著 新潮社(新潮文庫) 2012

もし死者と一度だけ再会できるとしたら、伝えたいことや聞きたいことはありますか？ 生者と死者の仲介「ツナグ」による不思議な物語。



マキノ 雅弘

1908年生まれ



『日本侠客伝-マキノ雅弘の世界』

山田 宏一／著 ワイズ出版 2007

生涯に261もの劇場映画を監督、制作し、日本映画の黄金時代を築いた巨匠。創造的反复の名匠の世界を紹介。



兼高 かおる

1928年生まれ



『わたくしが旅から学んだこと』

兼高 かおる／著 小学館 2010

31年続いた長寿番組「兼高かおる世界の旅」で約150か国を取材した著者が生涯最後に綴ったエッセイ。



バルテュス

1908年生まれ



『ミツ バルテュスによる四十枚の絵』

バルテュス／著 ライナー・マリア・リルケ／序文
阿部 良雄／訳 河出書房新社 2011

バルテュスによる猫の画像群の原点である、少年と仔猫の物語。バルテュスが少年時代にインクを用いて描いた40点のデッサンに、オーストリアの詩人リルケが序文を寄せた画集。



東京スカイツリー

2012年生まれ

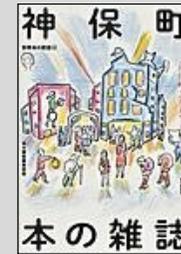


『東京スカイツリー物語』

松瀬 学／著 ベストセラーズ 2012

最先端の技術と多くの人間の心、時代の夢を背負ったプロジェクト、東京スカイツリー。その建設に賭けた人々の夢、秘話、格闘の物語。

気になる新着コーナー



『神保町本の雑誌』

本の雑誌編集部／編 本の雑誌社 2023

神保町を愛してやまない人たちが作った神保町のガイドブック。古書店案内はもちろんのこと、古書店巡りのうんちく、カレー屋や喫茶店の紹介、ランチ対決、さらにはギターの買い方まで、神保町の楽しみ方がぎゅっしり。

『アルプスの少女ハイジの料理帳』



イザベル・ファルコニエ／著

アンヌ・マルティネッティ／著 金丸 啓子／訳
原書房 2023

児童文学『アルプスの少女ハイジ』に出てくる料理を実際に作ることができるレシピ集。おじいさんの大鍋煮込みや溶かしチーズのラクレット、ペーターのスープなど、作り方だけでなく、物語の中でその料理が出てくる場面の文章も添えられていて、まるで自分も物語の中にいるような気分に。

『『源氏物語』のリアル』



繁田 信一／著 PHP研究所(PHP新書) 2023

今年は何かと話題になりそうな紫式部の『源氏物語』。本書では光源氏や六条御息所などの登場人物のモデルとされている実在の人物のエピソードや平安貴族の日常、風習がリアルに紹介されている。やんごとなき人々の日常は時にじれったく、時に呆れるほど大胆で…。